

みんなとともに笑顔いっぱい —「学びあい」「認めあい」「高めあい」—



みんなとともに



「オンライン授業参観」は、いかがだったでしょうか。もしかすると“不満”な思いを持った保護者の方も多かったのではないかと推察しています。コロナ禍の状況を受け、学校でも「オンライン全校集会」「オンライン児童会委員会」「オンライン職員会議」などを取り入れてきましたが、なかなか“カンペキ”にはいかないものです。でも、4月よりは“カクダン”に慣れ、進歩しているのは事実です。

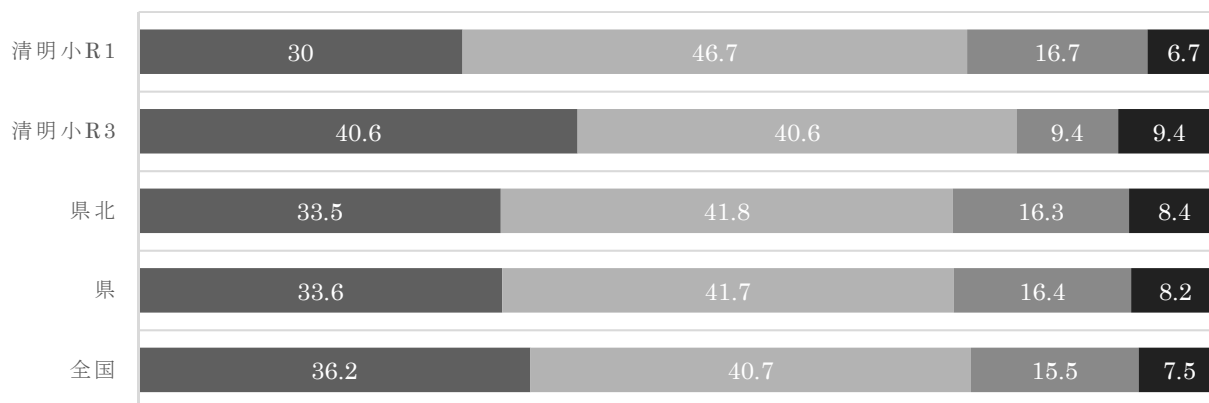


本校の子どもたちの「自己肯定感」を高めるために その3

11月2日(火)に県北域内(福島地区、伊達地区、安達地区)の校長会議がありましたが、その際の「全国学力・学習状況調査」の今年度の資料を見て、「自己肯定感(自尊感情)」について「比較」をしたくなりました。これまで本校の課題となっていた「自己肯定感」が、その後どうなっているのかを確かめたいと思ったのです。

◇児童質問(6)「自分にはよいところがあると思うか。」

自分にはよいところがあると思うか。



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

「全国学力・学習状況調査」は、小学校では6年生が4月に行う調査です。新型コロナウイルス感染症による臨時休業のため、昨年度は実施されませんでした。そのため、今年度は2年ぶりの調査となりました。(比較のために、2年前の結果も載せています。)

「自己肯定感(自尊感情)」を測る項目は、「自分にはよいところがあると思うか」という質問になりますが、今年度の本校の6年生は「県北・県・全国」に比較して「高い」結果を示しています。また、同じ集団ではないのですが、2年前の調査と比較しても、「自己肯定感(自尊感情)」は「高い」結果を示しています。

もちろん単純には言えませんが、本校の「自己肯定感」を高める取り組みは効果を上げている…ようです。

【校長のつぶやき】 その95 「“10分”の効果」

本校で「午前5校時」の日課表を採用して3年目になる。福島市では広がっていないが、会津若松市では採用する小学校が増えてきたという話を聞いている。

さて、昨年度と今年度の違いは「昼休みを10分増やした」ことである。本来は「毎日6校時時代に児童の負担を少なくする(特に4年生以上)」ことと「職員の事務時間を確保する」ことを目的に始めたことであるので、「下校時刻を少しでも早める」ことが「正解」である。しかし、これまでの実践から届いた「声」を生かし、あえて“不正解”を選ぶことにした。

そして、「その効果には大きなものがあった」と感じている。まず感じるのは、校庭に出て遊ぶ子どもの数が増えたことである。特に下学年はよく遊んでいる。もちろん、図書室で静かに本を読んでいる子や、教室で友だちと話をしている子もいる。そういえば、市陸上大会に向けてリレーの練習をする姿も見られた。“不正解”を選んだことは「子どもの笑顔」につながった。

私は「試み」という言葉が好きなのだが、“よりよきもの”へと高めていく営みは、楽しいものである。